

「優しい風が吹くと冷えた心も

ることと違うでー。漢字テストで百点取ることより素晴らしいで」と言ったら、

・風邪をあまりひかない自分が好き

と書いたんですね。

・自分の夢を持っている自分が好き

子どもが一年生の時に、「大リーグ選手になってお金持ちになったら、家を建ててあげろ」と言ったら、どの親も「頑張りやー」って応援しますね。ところが六年生になって同じこと言ったら親は、「それは無理と違うか」と言ってしまうんです。子どもは、無理だということも大きくなるに従って自分で感じるようになってきます。お父さんやお母さんの役目は、子どもの夢を応援してやることです。頭ごなしに夢を押しつけるのは駄目なんです。お父さんやお母さんは、子どもの未来の応援団の中でも応援団長なのです。

ある中学校で荒れてる中学生がいました。家で、その子にお母さんが、「あんたなあ、学校で暴れたなあ。あんたのことお父さんもお母さんも好きなんやで。お父さんお母さ

んにとつてあんたは宝物みたいなもんや。あんたがそんなことしたらお母さん悲しいわ」と言うのですが、学校でまた

暴れるんです。でも、どっかでギョッとブレーキがかかるんです。どっかでお父さんやお母さんの顔が浮かぶんです。

ところが逆に、「あんたみたいな子はうちの子とは違うわ」といって見放されたら、ブレーキがかかっていかないうちです。一人でも二人でも自分のことを愛してくれる人、応援してくれる人がいたら頑張れるのです。子どもはね、一人でも二人でも自分のことを見つめてくれる人がいると安心します。頑張れるのですね。

・お父さんが好きな自分が好き

と書いた子がいました。

お父さんとお母さんが離婚してお父さんと二人きりになったんです。この言葉を見た僕はうれしくて、個人懇談会が一カ月先だったんですが、すぐ電話をかけて訪問しました。お父さんは「あいつがそんなことを書いたんですか?」と言って、涙をボロボロとこ

ほされました。運動会の時も仕事があるのに休みをとって来たり、遠足の時も朝四時に起きて弁当作ったりしたお父さんの温かい気持ちを息子はしっかりと受け止めていたんですね。

優しい心のシャワーを

・どんくさい自分が好き
と書いた子がいました。

お母さんの「あんたいつもどんくさいけど、最後まで頑張るあんたの姿が好きやで」という言葉を子どもは受け止めているんですね。お父さんの「お父さんもどんくさいところあるねん。どんくさい者同士頑張るな」という言葉。友だちの「お前どんくさいかも知れんけど、お前とおったら心が温かくなるねん。せやからこれからも、友だちでいよな、仲良うしようなあ」という言葉。そうした言葉を聞くのと、その子はどんくさい自分が嫌いと思っていたけれど、そ



ういう自分を受け止めてくれるお母さん、お父さん、ほめてくれる先生、励ましてくれる友だちがいると自信をもってくるんです。そして輝いていくんですね。その輝いている姿を見てお父さん、お母さんも輝いていくんです。この自尊心という、自分を好きになるという事は、「自分のことが好きなんや」と言っているものではないんです。

どうやってなれるかって言うと、周りの声が育ててくれるんですよ。お父さんやお母さん、先生や友だちからほめてもらったり、励ましてもらったりする愛情のシャワー、優しい心のシャワーをいっぱい浴びると育っていくんですね。でも逆に冷たいシャワーを浴びることもあるんですね。先生にしかられたりするんです。でもまた、愛情のシャワーをいっぱい浴びることによって子どもたちは、優しく、たくましく強く、育っていくんですね。